

乳児院の大切な子どもたちを地震から守ろう -危険・不安の撲滅-

栃木県済生会宇都宮乳児院
発表者 小野綾子

サークル名	アタッチメイト	サークルメンバー数	男	1名	女	6名
サークル発足年数	2011年4月	サークルメンバー勤続年数	12年5か月			
サークル本部登録	2013年2月25日	本テーマ解決期間	8か月			
サークル本部登録番号	368-2	解決までの会合回数	26回			



宇都宮乳児院

宇都宮病院

宇都宮病院看護専門学校

高齢者ケアセンター

訪問看護ステーション ほっと



栃木県済生会

職場紹介



乳児院とは

児童福祉法により設置された児童福祉施設で、家庭において乳児を養育することができないとき、児童相談所からの入所措置を受け、昼夜を通して乳幼児をお預かりしています。また、乳幼児健康支援サービス、子育て支援短期入所、電話育児相談も行っています。

運営方針

子どもたちの基本的な人権を守り、家庭にかわって安定した人間関係の中で心身共に健康で心豊かな子どもを育成する。

保育目標

健康な体に育てる
 豊かな愛情で、情緒の安定をはかり、自主性と思いやいを育てる
 豊かな生活体験ができる環境を、安全に整える

サークル紹介

勤務交替は、平成23年12月現在、75名の子どもたちを保育者(看護師10名、保育士34名)で保育しています。毎日子どもたちの笑い声や泣き声でにぎやかな職場です。

<サークル名の由来>

☆アタッチメントとは・・・

愛着関係(アタッチメント)を大切に子ども達と日々関わっていることから名付けました。

<メンバー構成>

・保育士5名 ・栄養士1名 ・事務員1名の計7名

→その中で5人がQCサークル活動1年目

社会的養護って なあに？

社会的養護 = 親がいない・親に育てられない子を、公的責任で社会的に養育・保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと。

未受内には3ヶ所

宇都宮乳児院(定員80名)

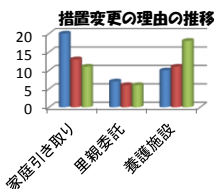
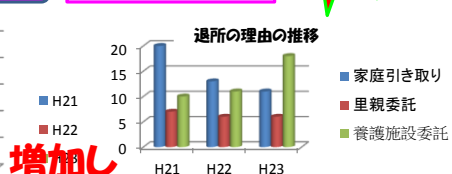
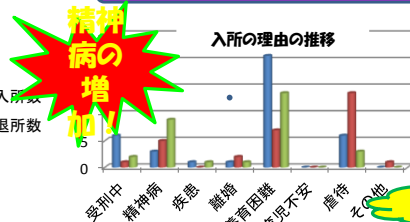
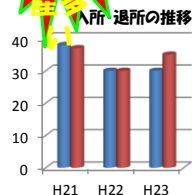
すみれ乳児院(定員9名)

夢乳児院(定員9名)

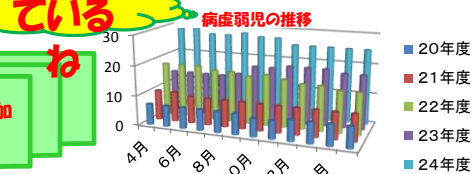
小山市

佐野市(H25.1~)

施設委託の増加!

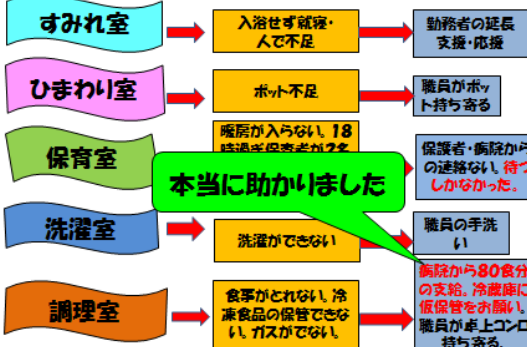


1. 虐待児の入所 <精神疾患・養育困難児の増加>
2. 家庭引き取り <養護施設入所の増加>
3. 病児弱児の増加



4. 現状把握③

スタッフの声
何が困ったの？



4. 現状把握④-1

防災訓練・地震対策は

- ・避難訓練 年 9 回
- ・総合訓練(香根学校含む) 年 1 回
- ・夜間避難訓練 年 2 回
- ・消防本部の立ち入り監査・指導 年2回



保育者はガス遮断操作を知らない
これじゃダメだね
緊急時ボイラーの職員・事務職員が対応
子どもが離れない何もできないよ！
避難誘導が分かりにくい
実際はどつするの？

4. 現状把握④-2

危険箇所・整理整頓が重要



4. 現状把握④-3

日頃の点検・評価

パッドチェック

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

危険な場所

場所	人数	チェック(2ヶ月)	危険箇所
保育室	1	20	13
器具室	4		
廊下	1		2
非常口	1		1
器具室	2		

安全ラウンド

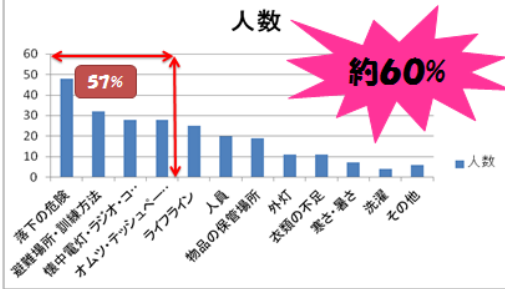
項目	実施	チェック	評価
避難訓練	○	○	○
安全衛生委員会	○	○	○
設備点検	○	○	○
衛生管理	○	○	○
その他	○	○	○

安全衛生委員会メンバーの1回/月のチェック実施
院長・部長・係長でラウンド1回/年チェック実施

4. 現状把握⑤

重点課題は？

対象人数46名 回収率100%
職員アンケート結果 複数回答可 平成23年6月実施



5. 現状把握で分かったこと

- 良い点
- ・避難訓練は、毎月実施している。
 - ・子ども達は放送と同時に自主的に避難場所に移動できる。(1~2歳以下は援助・誘導必要)
 - ・子どもの避難誘導は建物内で実施し、院外での避難誘導も実施している
- 気になる点
- ・落下物品の不安が強い
 - ・機械の操作を知らない(ガス遮断機の操作)
 - ・備蓄の内容を知らない
 - ・災害時の必需品を確認していない

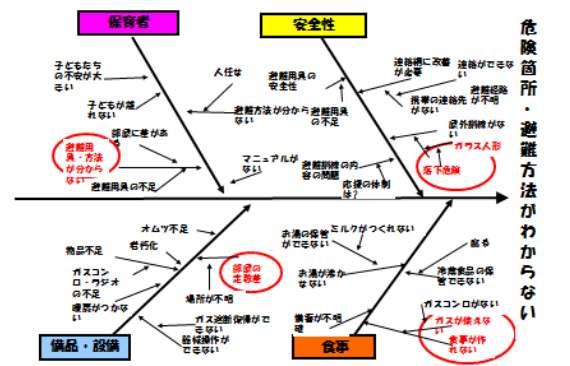
6. 目標の設定

何を	避難方法・落下物の危険の重点課題を
いつまでに	平成23年12月までに
どうする	20%に減少できる

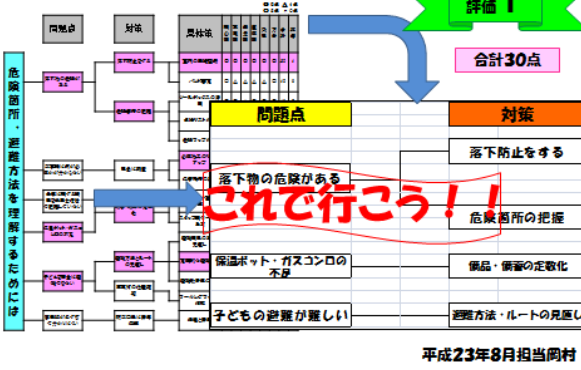
(H23.7作成)

7. 要因解析

平成23年8月担当小野



8. 対策立案



9. 対策の実施①

震災後の取組
平成23年8月佐藤担当

補修の工事しました
分けやすいわ！
フックを強化しました

点検工事マニュアルを作成
調理室職員全員に指導

9. 対策の実施②-1

整理整頓しなきゃ！

ストッパーの交換
撤去
整理しました！
1週間分保管できるよ！

担当者が危険箇所をチェックする取組
調査期間 8/13~8/17 5日間
どうにかして！

9. 対策の実施②-2

防災グッズ活用

平成23年10月担当小野

飛散防止フィルム
転倒防止①
転倒防止②

購入金額 10,788円

9. 対策の実施③-1

避難用具の新作完成！

病院の産科病棟で考案
小さい子なら3人もOK!!
これなら子どもをおとさないかもね
M・Lサイズ作成
平成23年10月担当佐藤

いもんだけど...着る時に少しきつかな？
ひもがもう少し柔らかいとよかな？
子どもの大きさによっては生地のお肌があるともよかな？

縫製の丁寧な任せで!!
保管場所
1. スリッパ除去
2. 女性用2名
3. 男性用1名

また私の出番ね！

10. 対策の実施③-2

避難用具の定位置・定数化と安全用具

おぶい紐
ヘルメット
リュックサック・靴

3本
8ヶ
3ヶ

1. 避難ベッド2台
2. 1ベッドに3人
3. 天井からの落下防止カバー作成

定数表示
保管場所

10. 対策の実施④-1

物品の定数化

調整できました!!
定数化
1. 員数の調整
2. 物品の更新
3. 物品の購入
4. 物品の共有化

中電灯
ホットラジオ
ヘルメット
ほまれ室
ホイスルヘッドライト
おぶいひも
保育室

10. 対策の実施④-2

食材の備蓄は...

しかし、決定までには少し時間が必要
3日間分リストアップしました!!
水・ミルク・米・缶詰・乾菓・調味料・レトルト・調理雑多など
平成23年12月担当佐藤

10. 対策の実施⑤

避難訓練方法・職員教育

- 夜間非常災害時の緊急電話連絡表の改定
- ・済生会病院との連携確認
 - ・自宅電話と携帯電話の記載(災害時優先電話)
 - ・圏域5以上は自動召集
 - ・全員に配布



停電でも
暗くなら
ないよ!

ガス遮断の操作指導

夜勤者全員OK

「はーり書えたよ!」

避難誘導



平日は、ボイラー・事務員で
日曜日 祝日 夜間
私達がします!!

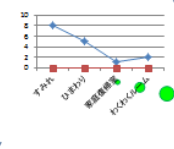
ここまでやらないとね

11. 効果の確認①

物品の定数化

危険箇所の改善

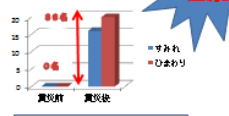
	震災前	震災後	改善
丸形カゴ	24	24	
椅子カゴ	3	3	見直し
椅子	0	0	
① 備え付け	3	5	5増大
② 物置	5	7	2増大
ラック	0	0	1増大
丸形カゴ	0	0	増大
椅子カゴ	0	0	増大
椅子	0	0	増大
丸形カゴ	22	20	



100%
達成

16箇所
すべて

ガス遮断の捜査 **増加**



- 日頃の努力と個々の意識向上
- 1. つっぱし橋
 - 2. オベリ止めマット
 - 3. 転倒防止グッズ
 - 環境整備

全員が操作できるよ!

11. 効果の確認②

部屋の見取り図作成

避難誘導は・・・

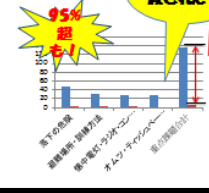
食材の備蓄は・・・

1. 子どもから離れない
2. 避難場所に子どもを誘導する
バタバタ動かない
3. 危険の状況、優先順位の判断
4. 応接を待つ

現在1日分の保管はある
今後3日分はあるべきか!
電気・ガス・水道の使用可能
状況により異なり、さらに検
討することになった



アンケート結果



不安が軽減された!

目標達成!!

12. 効果の確認でわかったこと



避難訓練はしっかりと
実施しているが

継続してきた避難訓練を実践的に行うこと
職員全員が危険物・備品物品など災害時の行動に対する意識を
高めることが重要なことが再確認できた

- 備品の管理を定期チェックができるようになった
- マニュアルができ統一した行動がとれるようになった

しかし、あの3.11は保護者からの連絡は
入所中の子ども4人/76人中であった
児童相談所からの連絡はなかった

「保護者の安心・不安の
除去」
正しい情報は私達の手
で!!

13. 波及効果

子どもを第一に考えよう!!

① 県内の児童相談所(中央・県南・県北)
との交流会実施-H24.1.25

- ・家庭環境、保護者関係の情報交換
- ・院での様子、問題の共有、今後の課題

② 看護学生の支援体制 保護者の承諾なしダメなのね!



14. 標準化と管理の定着

いつ	誰が	何を	どこで	どうする
毎月	QC班が	避難用品の定数 チェック	各部屋の 記録室で	声出し確 認をする
年2回	防災委員が	防災用具を 用いて	各部屋で	体験指導 できる
毎月	安全委員 会担当者 が	チェック シートに 沿って	院内・ 院外を	チェッ クする

15. 活動の反省と今後の課題

	プロセス	良かった点	今後の課題
P	テーマ選定と理由 現状把握と対策のねらい所	重要性・緊急性が高いので取り組み良かった	—
D	対策の検討 対策の実施	職員全員の協力があつた。 訓練ができて重要性の再確認できた	—
C	効果の確認	ルーチン化した活動になった	—
A	標準化と管理の定義 今後の方針	各個人が責任をもって行動できた。係りの役割として再認識できた。 地域に発信できる機会になった	夜間の対応は難しい

16. 今後の方針・今後の課題

落下の危険や避難の不安は、日頃から疑問視されていた。しかし、「来るわけがない」の体験からその重要性を知る機会となった。

